

【組織理念】

私たちの組織理念は、

「Vision:私たちの目指す社会」

「Mission and Purpose:私たちの使命・存在意義」

「Values and Credo:私たちの信条（強み）・行動指針」 の3つの要素で構成されています。

私たちは、創設者である故福島政一夫妻の「困っている人と共に生きる」という思い、そして福島一雄前理事長のリーダーシップの元で進められてきた事業展開への思いを大切に、これからも成長し続ける組織づくりに努めます。すべては子どもたちのために。

「Vision:私たちの目指す社会」

- ・すべての子どもたちが未来に希望を持てる社会の実現

私たちが目指す社会は、「すべての子どもたちが未来に希望を持てる社会」です。

すべての子どもたちが自分らしく生きていけること、そして、子どもたちにとって希望の持てる社会であること。そのような、社会の実現に貢献します。

「Mission and Purpose:私たちの使命・存在意義」

- ・社会的養護を必要とする子どもたちの最善の利益の追求
- ・子どもの福祉を取り巻く社会課題の解決への貢献

私たちは、子どもたちの成長する力を信じます。

私たちは、多様な個性が尊重される「日常」という安全な営みを保障します。

そして、子どもが未来に自分らしい希望を見出せるよう共に生きます。

私たちは、どのような状況にある子どもでも、権利が保障され、健全に成長していけるよう、子どもの福祉を取り巻く社会課題の解決にも積極的に貢献します。

それらが、私たちの使命であり、存在意義です。

「Values and Credo:私たちの信条（強み）・行動指針」

Values and Credo は、6つのバリューと17のクレドで構成されています。

ビジョンやミッションを達成するための私たちの信条（強み）であり、行動の指針となるものです。

Value.1 利用者の尊重

共生の精神に則り、利用者の人格を尊重し、利用者の立場に立ったサービスを提供します。

Credo①：子どもの権利を擁護しよう

Credo②：養育の質を向上しよう

Credo③：子どもの生活環境を向上しよう

Value.2 自立支援

利用者の持つ能力に応じて、自立した日常生活を営むことが出来るよう支援します。

Credo④：子どもの自尊心を回復させよう

Credo⑤：夢の実現を応援しよう

Credo⑥：退所後の安定した暮らしに貢献しよう

Value.3 安心・安全な生活

利用者や家族が安心・安全な暮らしができるように支援します。

Credo⑦：「共に」の精神を



Credo⑧：地域との繋がりを感じられる暮らしを

Credo⑨：暮らしに笑顔を

Value.4 人材育成

職員の成長を促す取り組みを行い、資質と専門性の向上をはかります。

Credo⑩：多職種が力を合わせてチーム支援

Credo⑪：働き甲斐のある職場づくり

Credo⑫：社会にも貢献できる人材を育成

Value.5 信頼される組織運営

社会に開かれ、信頼される組織運営を行います。

Credo⑬：社会に開かれた組織運営を

Credo⑭：健全な財務規律を確立しよう

Credo⑮：信頼と協力を得るための情報発信を

Value.6 地域との連携

地域住民又はその自発的な活動との連携及び協力を行う等の地域との交流に努め、地域の福祉サービスの拠点を目指します。

Credo⑯：施設機能の地域への還元

Credo⑰：SDGsを推進しよう

<KAGs ロゴマーク>



※17のCredoについては、「Kibo-noie Action Guidelines(略:KAGs)」と呼称して使用。また、17の項目それぞれに長期ビジョンと達成のためのポイントを設定し、実現を目指した取り組みを行う。

<希望の家ロゴマーク>



中心の笑顔の太陽が希望、建物は「お家(いえ)」で、「きぼうのいえ」を表現しています。

共生会のロゴマーク(下段葉っぱのロゴ)を下段に用いることで、その歴史や精神が土台にあることを表しています。

「わたしらしさ、あなたらしさ」という共生会のキャッチフレーズは、多様な色と形の木々が表しています。

施設から飛び立つ鳥は一羽ではありません。必要に応じ継続的につながり続けていく職員の覚悟と、一人ではないというメッセージを込めています。

そして、これからも地域に開かれ、地域の子育て支援のニーズに応えられる施設を目指すことを開かれた扉、鳥の親子が表しています。



わたしらしさ、あなたらしさを大切に

【運営の目的と基本方針等】

1. 運営目的

児童福祉法、児童憲章、子どもの権利条約の精神を理念として社会的養護を要する子どもに対して『子どもの最善の利益』のために、その自立心を損なうことなく、心身ともに健全な人間として、家族再統合、社会参加できることをめざして日々の援助を行うことを目的とする。

2. 基本方針

- ① 男女別2つのユニットと、男女混合5つのグループホームにおいて、家庭的養護を実践する。
- ② 温かい愛情と潤いに満ちた人間関係の中で、安心と信頼にあふれる生活環境を作り、子ども同士の連帯感を強め、集団を大切に、子ども一人ひとりが本来持っている力が伸びるように努める。
- ③ 入所児童とその家族を支援の対象としたソーシャルワークを実践する。
- ④ より家庭に近い養育環境を必要とする子どもは養育家庭に委託する。
- ⑤ 家庭生活の体験の機会としてフレンドホームを積極的に活用する。
- ⑥ 治療的養育環境を整備し、子どもの心の回復と安定を図る。
- ⑦ 地域コミュニティーにおいては、社会福祉分野の貴重な資源としての機能を如何なく発揮する。

3. 外部監査

定期的に公認会計士による外部監査を受ける。会計、運営に関する分析から課題を抽出し改善方法を探る。

4. 第三者評価（IMS ジャパン）

施設運営や養育、支援の内容について第三者による評価を受ける。評価結果については職員間で共用し、評価の結果を分析し、施設として取り組むべき課題を明確にできるようにする。



【令和5年度 事業計画 重点項目】

第1項 Value.1（基本方針）利用者の尊重

目標内容	評価尺度	担当者	優先度
<子どもの権利擁護> ・子どもの権利に対する、職員の意識向上の取組みを検討の上、実施	・第三者評価機関利用者アンケート設問9:70%以上 (※1)	GH支援員 ケアワーカー プロジェクト	高
<合意形成> ・子どもと職員とで合意形成された子ども向け自立支援計画書の作成と運用	・運用を開始 ・第三者評価機関職員アンケート設問6-3-2-2:15%アップ (※2)	プロジェクト	中
<BCPの整備と訓練> ・各種BCPの整備と実効性のある訓練の実施	・第三者評価機関職員アンケート設問4-1-1-4②5%アップ (※3)	防災委員会	中
<ICTリテラシーの向上> ・ICT化の推進とセキュリティ向上のための取組みとして、子ども向けにICTリテラシー教育を行う	・リスクマネジメント委員会主催のICTリテラシー教室を開催する	リスクマネジメント委員会	低

※1 子どもの気持ちを受けとめ、尊重した対応がされているか

※2 計画を子どもにわかりやすく説明し、同意を得ようとしている

※3 私は、リスクへの対策や計画について理解できており、自分の役割に応じて対応できる

第2項 Value.2（基本方針）自立支援

目標内容	評価尺度	担当者	優先度
<自立支援の強化> ・自立支援委員会の立ち上げによる自立支援の質の向上と標準化の促進 <生い立ちの整理> ・施設内における生い立ちの整理のあり方の検討	・委員会の立ち上げと委員会の定期開催（1/3Mを目安）	自立支援委員会	高
<性に関する職員の意識の向上> ・養育ハンドブックへの反映 ・マニュアル集のアップグレード	・養育ハンドブックやマニュアル集への反映を通して、組織の学びとしているか	暮らしと性の委員会	中
<新たな連絡ツールの導入> ・LINE公式アカウントの利用による退所者との繋がりの確保	・退所者にとって繋がりがやすく、また有益な情報等が配信される	自立支援担当職員	低

第3項 Value.3（基本方針）安心・安全な生活

目標内容	評価尺度	担当者	優先度
<笑顔のある暮らしを> ・各グループのあたたかな雰囲気づくり、楽しい雰囲気づくりを促進 ・現場へのバックアップ機能の強化（専門性の向上・連携強化）	・GH支援員、サポーター、栄養士等が年間を通して各グループを巡回する ・第三者評価機関利用者アンケート設問①:10P↑(※1)	ケアワーカー GH支援員 サポーター 栄養士 その他	高
<防犯対策の強化> ・本体施設のオートロックの検討 ・110番通報装置の設置の検討	・オートロック化と通報装置導入の検討がなされ、2024年度設置に向けた申請を行う	管理職	中
<服薬管理の徹底> ・服薬管理方法の施設内標準化の促進と、運用しながらのチェック機能の強化	・服薬管理に関する事故の防止	看護師	中
<修繕> ・新小岩ホームの外壁塗装を実施	・外壁塗装の実施	管理職	低

※1 食事の時間が楽しいひと時になっているか



第4項 Value.4（基本方針）人材育成

目標内容	評価尺度	担当者	優先度
<キャリアプランの改定> ・希望の家の歴史や組織理念に基づいたキャリアプランの検討・作成	・キャリアプランの素案を作成する	プロジェクト	高
<人材確保> ・全グループ6名体制に向けた採用活動と、6名体制を前提としたチーム運営の在り方の検討	・プロジェクトでの検討と成果物の共有 ・質の高い必要人員の確保	人材確保担当者 プロジェクト	中
<プロジェクトの推進> ・プロジェクトの推進等で、タスク管理や特定の職員とのやり取りが必要となることから、アプリやツールの導入を検討	・検討が行われ、導入にあたってはノンプロフィット版の利用可能性等もあたる	プロジェクト	中
<交換研修の実施> ・コロナウイルスにより見送っていた施設内での交換研修の再開を見込み、その在り方などを検討の上で実施	・施設内交換研修フォーマット類の改定 ・施設内交換研修の実施	人材育成委員会	低
<働き方改革> ・有休休暇取得率の段階的な向上を図る	・2023年度の全職員への有休付与総数に対して取得率を58.3%以上に※1	管理職	低

※1 令和3年度全業種平均有休消化率=58.3%（厚生労働省調査）

第5項 Value.5（基本方針）信頼される組織運営

目標内容	評価尺度	担当者	優先度
<苦情解決の仕組みの整理> ・苦情解決のあり方について整理を行う（利用者家族や地域住民、関係機関等への苦情解決の仕組みの説明と結果の公表等）	・苦情解決委員との協議を行い、苦情解決のあり方について合意形成する	苦情解決責任者 受付担当者	高
<広報力の強化> ・広報担当者の配置（学生アルバイトを想定） ・LINEの認証アカウントを活用した配信活動の開始	・広報担当者の配置 ・新たなツールでの配信の実施	広報委員会 広報担当者	中
<ファンディングの強化> ・マンスリーサポーターの増加 ・支援者管理とコミュニケーション方法・内容の整理	・2021年比で2倍のサポーターの確保 ・コミュニケーション方法のマニュアル化と共有	管理職 広報担当者	低

第6項 Value.6（基本方針）地域との連携

目標内容	評価尺度	担当者	優先度
<地域支援の展開> ・地域支援の新たな取組みを開始するためのニーズ把握と準備（在宅での養育継続のための取組みを想定）	・新設の葛飾区児童相談所との連携を強化し、地域に求められる支援の可能性を把握する	管理職	高
<地域支援の充実> ・2年目を迎える「親子ふれあいサロンきぼう」の内容をよりニーズに合った内容にブラッシュアップする	・利用者数の増加（2022年度比）	ホームスタート担当者	中
<地域との連携強化> ・葛飾区子育てフェスタ共催者としてのあり方の検討と参画	・検討する場を設定した上で方針立てし、実行委員会にも積極的に参画する	管理職 ホームスタート担当者	低

